

第一工科大学

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

令和4年度 自己点検・評価結果(1/2)

評価日時：2023年3月14日

会議名称：第15回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の令和4年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	C	令和4年度より、全学科に対しリテラシーレベル相当の科目を展開し、教務委員会において、単位の履修状況および単位取得状況を確認している。本プログラムに関わる科目はまだ必修科目となっておらず、開設初年度で認知が低く履修者は53名（該当学年全学履修率17%程度）にとどまった。
学修成果	B	アンケートにより授業を振り返り、学習・教育目標の達成度の自己評価を行った。教員は、これらの結果を分析し、学生の授業内容の理解度を把握するとともに、本教育プログラムの評価・改善に活用する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	C	採点結果は予想より低かったため、理解度向上に努める。学期末に受講者授業アンケートを行ったので、次年度以降アンケート結果が良くなっていくようアンケート結果を分析・改善していく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	C	学生アンケートをもとに教員が授業改善計画書を作成している。履修学生の意見を活用してより現在の学生に合うよう調整を行い、次年度学生へのプログラム履修の推奨度を高めるとともに学習意欲の向上へと繋げていく。また、学期初めのオリエンテーションにて学生に周知し、学習意欲の向上及び後輩への推奨につなげる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	C	将来的には必修化し履修率100%を目指しているが、まだカリキュラム変更に至っておらず選択科目の状態である。初年度である本年度の履修率は17%程度であった。履修率を上げるため、周知活動を進めつつ、必修化に向けてカリキュラム調整を進めている。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

第一工科大学

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

令和4年度 自己点検・評価結果(2/2)

評価日時：2023年3月14日

会議名称：第15回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の令和4年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	-	令和4年度より、全学科に対しリテラシーレベル相当の科目を展開し、教務委員会において、単位の履修状況および単位取得状況を確認している。本プログラムに関わる科目はまだ必修科目となっておらず、開設初年度で認知が低く履修者は53名（該当学年全学履修率17%程度）にとどまった。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	C	アンケートにより授業を振り返り、学習・教育目標の達成度の自己評価を行った。教員は、これらの結果を分析し、学生の授業内容の理解度を把握するとともに、本教育プログラムの評価・改善に活用する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	/	採点結果は予想より低かったため、理解度向上に努める。学期末に受講者授業アンケートを行ったので、次年度以降アンケート結果が良くなっていくようアンケート結果を分析・改善していく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	/	学生アンケートをもとに教員が授業改善計画書を作成している。履修学生の意見を活用してより現在の学生に合うよう調整を行い、次年度学生へのプログラム履修の推奨度を高めるとともに学習意欲の向上へと繋げていく。また、学期初めのオリエンテーションにて学生に周知し、学習意欲の向上及び後輩への推奨につなげる。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。